



**2025年2月期  
第2四半期（中間期）決算説明資料**

2024年10月11日

株式会社ツインバード 証券コード：6897

## 2025年2月期 第2四半期決算（中間期）ハイライト

売上高は「匠プレミアム」ブランドラインの代表製品である全自動コーヒーマーカーや匠ブランジェトースター及び家庭用冷凍冷蔵庫のラインナップ製品が引き続き堅調に推移したものの、大型OEM製品の出荷が前期に完了したため減収  
個人消費低迷による競争激化や歴史的な円安水準の長期化による原価高騰で、売上総利益率は前年同期より△4.0pt悪化

売上高

**44.5億円**  
(前年同期比 △6.9%)

中間純利益

**△2.2億円**  
(前年同期比 △0.7億円)

売上総利益率

**26.3%**  
(前年同期比 △4.0pt)

家電製品事業  
セグメント利益\*

**0.54億円**  
(前年同期比 △65.3%)

営業利益

**△3.5億円**  
(前年同期比 △1.2億円)

FPSC※事業  
セグメント利益\*

**0.07億円**  
(前年同期比 △90.1%)

経常利益

**△3.2億円**  
(前年同期比 △1.3億円)

自己資本比率

**72.1%**  
(前期末比 △0.9pt)

※FPSC：フリー・ピストン・スターリング・クーラー \*調整額（全社費用 4.1億円）を除外

## 2025年2月期 第2四半期決算（中間期）のポイント

### ■ 第2四半期（中間期）業績

- 家電製品事業は、「匠プレミアム」ブランドラインの代表製品である全自動コーヒーマーカーや匠ブランジェトースター、及び家庭用冷凍冷蔵庫のラインナップ製品が引き続き堅調に推移したものの、大型OEM製品の出荷が前期完了したため減収  
個人消費低迷による競争激化や歴史的な円安水準の長期化による原価高騰のため、セグメント利益は前年同期より減益
- FPSC事業は、冷凍機単体を供給する海外大手取引先の在庫調整による出荷減少のため、前年同期より減収減益

### ■ 通期業績予想（2024年4月12日公表値から変更なし）

- 家電製品事業は、最大の需要期である年末商戦及び新生活商戦において、匠プレミアムブランドラインの全自動コーヒーマーカーや匠ブランジェトースターが売上に貢献するとともに、調理家電や全自動洗濯機等の新製品を集中投入して売上拡大を見込む  
またインバウンド宿泊需要で好調なホテル向け製品や、入替え需要が回復している病院向け冷蔵庫、デベロッパ向け浴室テレビなどについて、決算期末需要で売上の増加が見込まれることから、前期比増収となる見込み  
利益面では、当社の強みであるギフト及びソリューションチャンネルの底堅い利益貢献に加え、販売好調な調理家電を中心に大幅な原価低減を進め収益性の改善を図る  
さらに、国内製造の増加で自社工場の稼働率が向上し、前期より増益の見込み
- FPSC事業は、年+9.6%成長\*のバイオ医薬品市場における搬送・保管には、ドライアイスの使用に取って代わる厳密な温度管理（冷凍-20~-40℃ 極冷凍-70~-85℃）のコールドチェーン構築が不可欠  
FPSCの独自技術がグローバル市場でも高く評価され、燃油計測機や校正器などの分野において、欧米を中心に複数の企業と契約へ向け開発着手  
世界保健機関（WHO）が定める医療機材品質認証（PQS：Performance, Quality and Safety）を2024年10月に取得  
今後各国で医療機材を選定する際の基準となるWHOのPQSカタログに掲載  
ワクチン運搬庫の海外販売活動を強化

\*出典：EvaluatePharma, Worldwide Prescription Drug & OTC Sales by Technology (2012-2026)

## 目次

---

1. 2025年2月期 第2四半期（中間期）決算概要
2. 2025年2月期 通期業績予想
3. 2025年2月期 中間配当 年間配当予想

補足資料：四半期別業績数値

## 目次

---

1. 2025年2月期 第2四半期（中間期）決算概要

2. 2025年2月期 通期業績予想

3. 2025年2月期 中間配当 年間配当予想

補足資料：四半期別業績数値

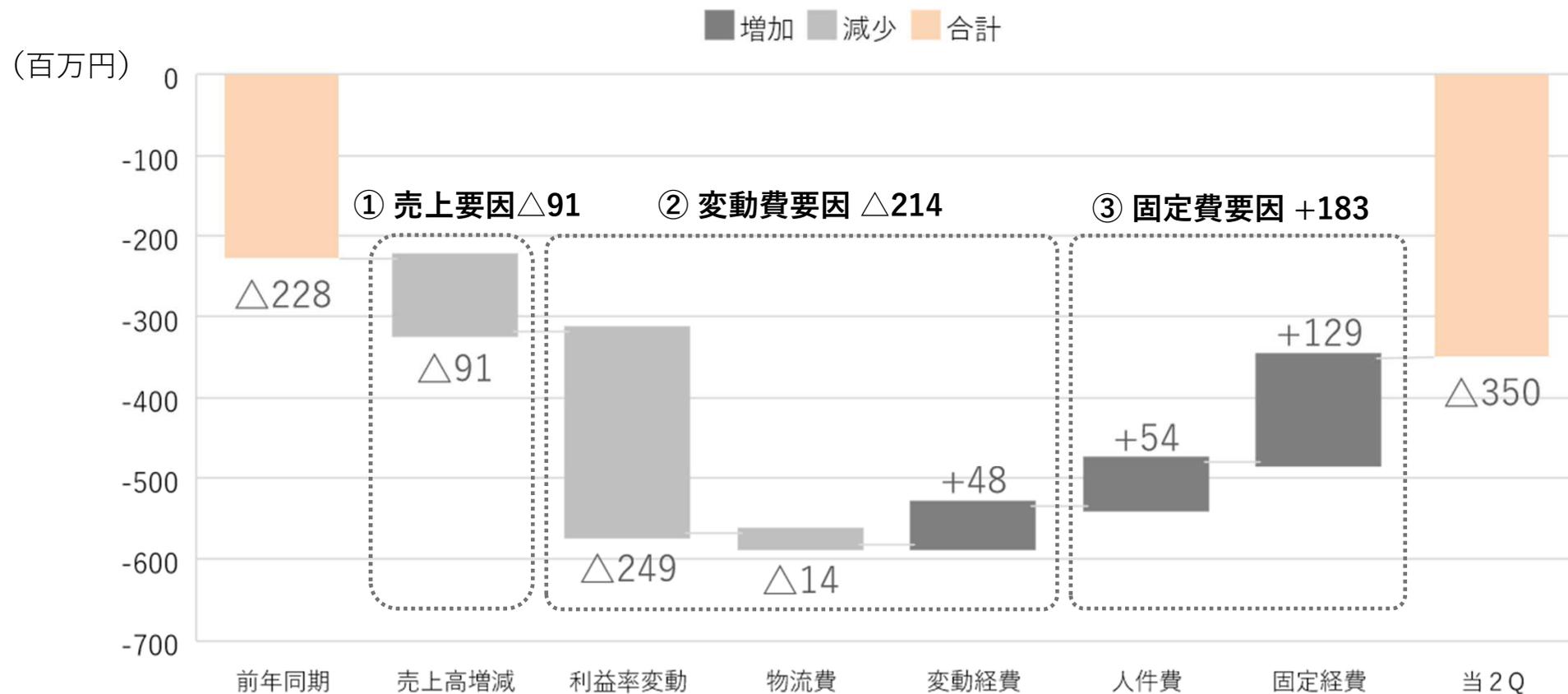
## 2025年2月期 第2四半期（中間期） 損益概況

売上高は「匠プレミアム」ブランドラインの代表製品である全自動コーヒーメーカーや匠ブランジェトースター及び家庭用冷凍冷蔵庫のラインナップ製品が引き続き堅調に推移したものの、大型OEM製品の出荷が前期に完了したため減収  
個人消費低迷による競争激化や歴史的な円安水準の長期化による原価高騰で、売上総利益率は前年同期より△4.0pt悪化

単位：百万円	2024年度	2023年度		(参考)
	中間期 実績	中間期 実績	前年同期比 差額 増減率	2024年度 通期 業績予想
売上高	4,454	4,786	△332 -6.9%	10,500
売上総利益	1,171	1,448	△277 -19.1%	
売上高比	26.3%	30.3%	-4.0pt	
営業利益又は営業損失（△）	△350	△228	△122 -	200
売上高比	-7.9%	-4.8%	-	1.9%
経常利益又は経常損失（△）	△328	△193	△134 -	180
当期純利益又は中間純損失（△）	△221	△143	△78 -	130

## 2025年2月期 第2四半期（中間期） 営業利益：前年同期比増減の要因分析

売上高の減収影響に加え、個人消費低迷による競争激化や歴史的な円安水準の長期化により変動費率が悪化  
 固定費は前年同期より圧縮するものの、営業損失は前年同期より122百万円増加

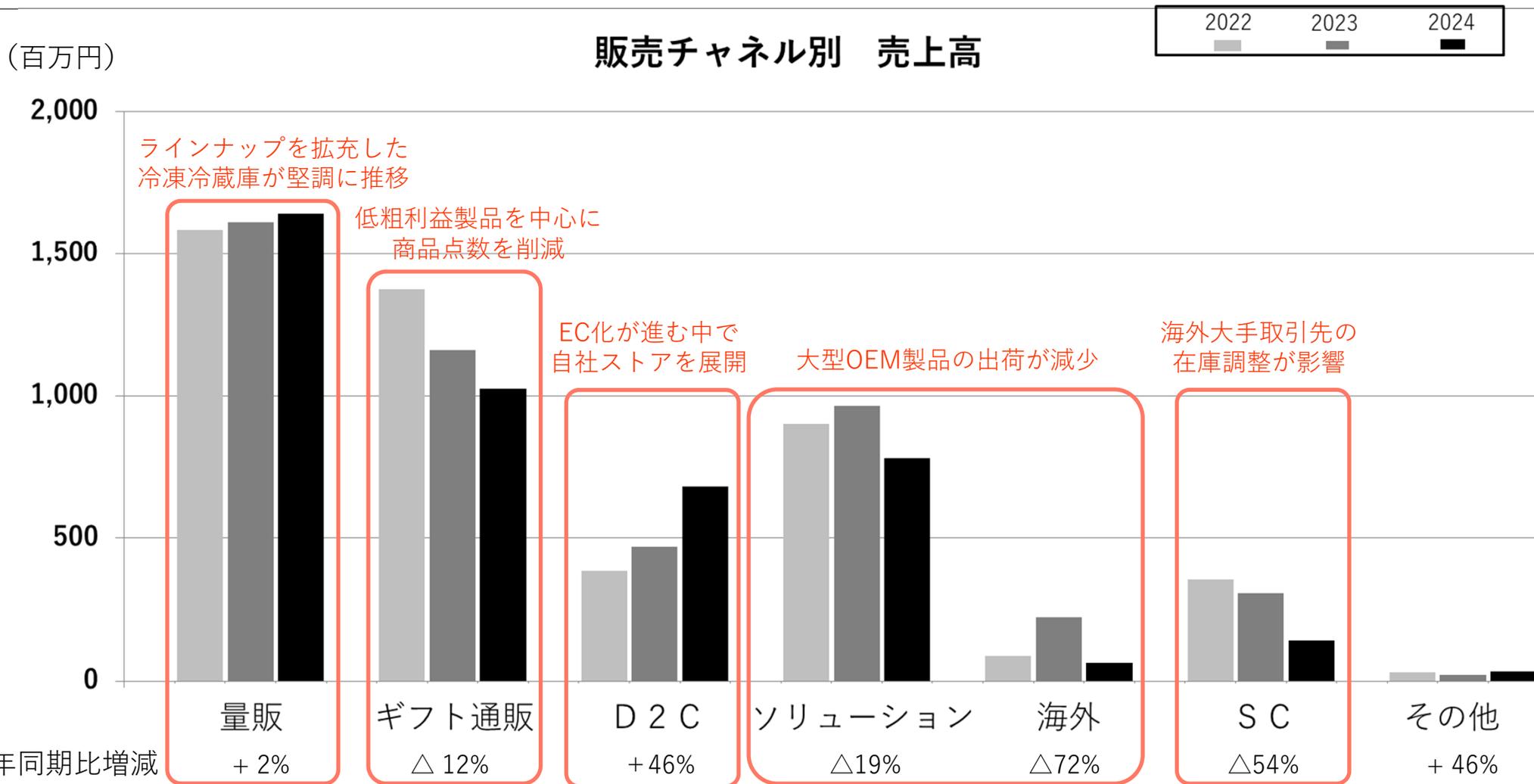


## 2025年2月期 第2四半期（中間期） セグメント別業績概況

- 家電製品事業は、「匠プレミアム」ブランドラインの代表製品である全自動コーヒーマーカーや匠ブランジェトースター、及び家庭用冷凍冷蔵庫のラインナップ製品が引き続き堅調に推移したものの、大型OEM製品の出荷が前期完了したため減収  
個人消費低迷による競争激化や歴史的な円安水準の長期化による原価高騰のため、セグメント利益は前年同期より減益
- FPSC事業は、冷凍機単体を供給する海外大手取引先の在庫調整による出荷減少のため、前年同期より減収減益

単位：百万円	売上高				セグメント利益（営業利益）			
	2024年度 実績	2023年度 実績	前期比 差額	前期比 成長率	2024年度 実績	2023年度 実績	前期比 差額	前期比 成長率
家電製品事業 売上高比	4,294	4,462	△168	△3.8%	54 1.3%	157 3.5%	△102 -2.3pt	△65.3%
FPSC事業 売上高比	159	323	△163	△50.6%	7 4.9%	78 24.3%	△70 -19.5pt	△90.1%
調整額					△413	△464	51	
全社 計 売上高比	4,454	4,786	△332	△6.9%	△350 △7.9%	△228 △4.8%	△122 -3.1pt	-

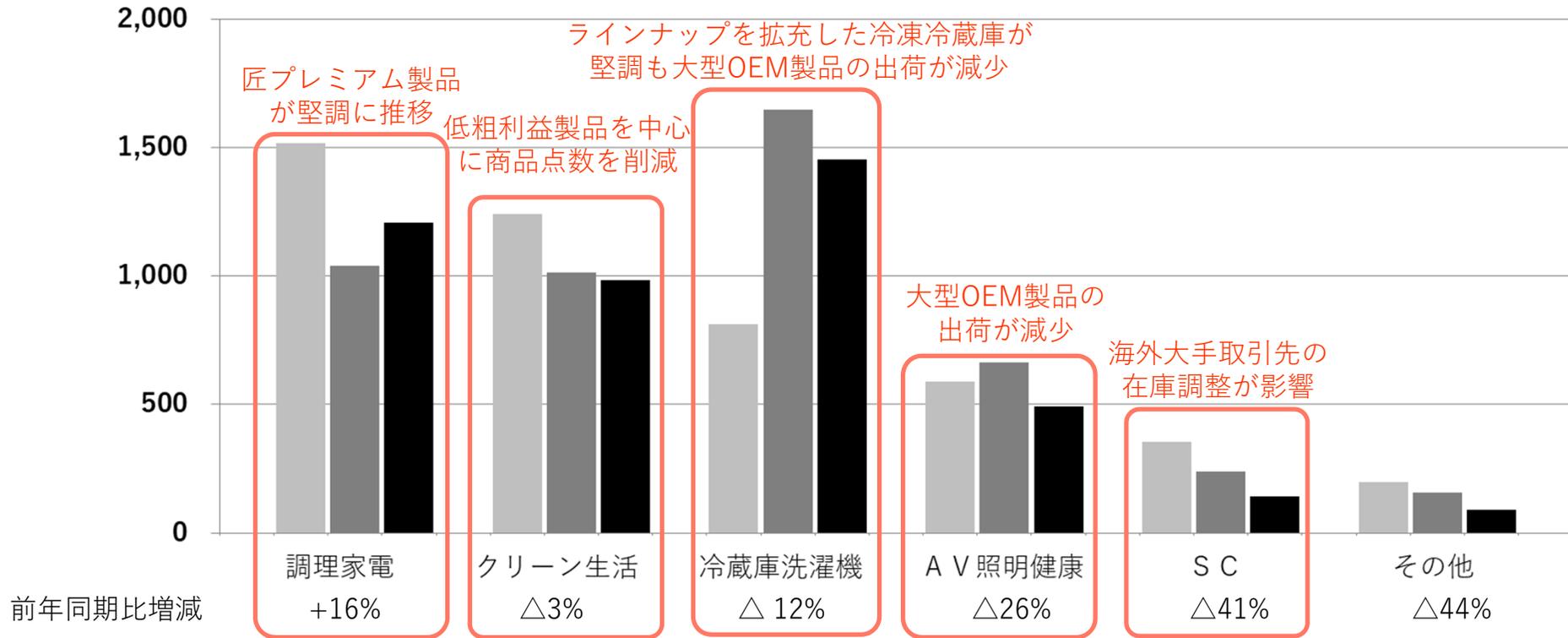
# 2025年2月期 第2四半期（中間期） 販売チャネル別 売上高の推移



# 2025年2月期 第2四半期（中間期） 商品ジャンル別 売上高の推移

(百万円)

商品ジャンル別 売上高



匠プレミアム製品  
が堅調に推移

低粗利益製品を中心  
に商品点数を削減

ラインナップを拡充した冷凍冷蔵庫が  
堅調も大型OEM製品の出荷が減少

大型OEM製品の  
出荷が減少

海外大手取引先の  
在庫調整が影響



全自動  
コーヒー  
メーカー  
CM-D465B



匠ブランジェ  
トースター  
TS-D486B



ドック吸引式コードレス  
スティック型クリーナー  
TC-E292W



中身が見える  
冷蔵庫  
HR-EI35B



スターリング  
冷凍機  
SC-UE15R

## 2025年2月期 第2四半期末（中間期末） 貸借対照表

新生活商戦の販売資金の回収が進み売上債権が減少したことなどにより総資産を圧縮  
資本コストを意識した経営の実現に向け、段階的に資産の圧縮や適切な財務レバレッジの活用を進める

単位：百万円	2024年度			2023年度			
	中間期末	前期末	増減	中間期末	前期末	増減	
現預金	799	871	△72	仕入債務	185	318	△133
売上債権	1,313	1,942	△628	短期借入金	1,100	700	400
棚卸資産	3,055	3,021	33	長期借入金	575	690	△115
その他	404	494	△89	その他	1,135	1,314	△179
流動資産 計	5,573	6,330	△756	負債 合計	2,996	3,023	△27
有形固定資産	3,622	3,651	△29	資本金・資本剰余金	5,149	5,143	5
無形固定資産	621	494	127	利益剰余金	2,562	2,893	△330
投資その他資産	924	737	187	その他	33	152	△119
固定資産 計	5,168	4,883	285	純資産合計	7,745	8,189	△443
資産 合計	10,741	11,213	△471	負債&純資産合計	10,741	11,213	△471
				自己資本比率	72.1%	73.0%	△0.9pt

## 2025年2月期 第2四半期（中間期） キャッシュ・フロー計算書

新生活商戦の販売資金の回収が進んで売上債権が減少したことなどにより、営業キャッシュフローを確保  
DX投資や新商品開発投資による支出を継続し、フリーキャッシュフロー\*はマイナスとなる

（単位：百万円）

	2024年度		2023年度	
	中間期	中間期	中間期	増減
税引前中間純利益	△316	△193	△123	
減価償却費	150	201	△51	
売上債権の増減額	628	289	339	
棚卸資産の増減額	△33	△157	123	
仕入債務の増減額	△133	△89	△43	
その他	△233	75	△309	
<b>営業CF</b>	<b>60</b>	125	△64	
固定資産の取得による支出	△296	△166	△129	
固定資産の売却による収入	6	-	6	
投資有価証券の売買額	13	8	5	
その他	0	4	△4	
<b>投資CF</b>	<b>△275</b>	△153	△122	
短期借入金の増減額	400	200	200	
長期借入金の増減額	△115	△115	-	
リース債務の返済額	△32	△43	11	
配当額の支払額	△109	△108	△1	
<b>財務CF</b>	<b>143</b>	△66	210	
<b>フリーキャッシュフロー*</b>	<b>△215</b>	△27	△187	
現金等の換算差額	△0	2	△2	
現金等の増加額	△72	△91	19	
現金等の期首残高	495	485	9	
現金等の期末残高	422	393	29	

\*フリーキャッシュフロー＝営業CF＋投資CF

## 目次

---

1. 2025年2月期 第2四半期（中間期）決算概要
2. 2025年2月期 通期業績予想
3. 2025年2月期 中間配当 年間配当予想

補足資料：四半期別業績数値

## 2025年2月期 通期業績予想（2024年4月12日公表値から変更なし）

- 家電製品事業は、最大の需要期である年末商戦及び新生活商戦において、匠プレミアムブランドラインの全自動コーヒーマーカーや匠ブランジェトースターが売上に貢献するとともに、調理家電や全自動洗濯機等の新製品を集中投入して売上拡大を見込む。またインバウンド宿泊需要で好調なホテル向け製品や、入替え需要が回復している病院向け冷蔵庫、デベロッパ向け浴室テレビなどについて、決算期末需要で売上の増加が見込まれることから、前期比増収となる見込み。利益面では、当社の強みであるギフト及びソリューションチャンネルの底堅い利益貢献に加え、販売好調な調理家電を中心に大幅な原価低減を進め収益性の改善を図る。さらに、国内製造の増加で自社工場の稼働率が向上し、前期より増益の見込み。
- FPSC事業は、年+9.6%成長\*のバイオ医薬品市場における搬送・保管には、ドライアイスの使用に取って代わる厳密な温度管理（冷凍-20~-40℃ 極冷凍-70~-85℃）のコールドチェーン構築が不可欠。FPSCの独自技術がグローバル市場でも高く評価され、燃油計測機や校正器などの分野において、欧米を中心に複数の企業と契約へ向け開発着手。世界保健機関（WHO）が定める医療機材品質認証（PQS：Performance, Quality and Safety）を2024年10月に取得。今後各国で医療機材を選定する際の基準となるWHOのPQSカタログに掲載。ワクチン運搬庫の海外販売活動を強化。

\*出典：EvaluatePharma, Worldwide Prescription Drug & OTC Sales by Technology (2012-2026)

単位：百万円	2024年度	2023年度		
	通期 業績予想	通期 実績	前期比 差額	増減率
売上高	10,500	10,303	197	1.9%
営業利益	200	113	87	77.0%
売上高比	1.9%	1.1%	0.8pt	
経常利益	180	166	14	8.4%
当期純利益	130	108	22	20.4%

## 目次

---

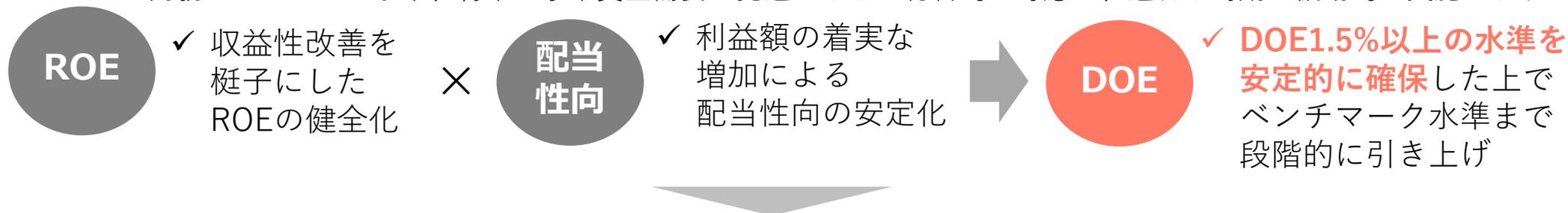
1. 2025年2月期 第2四半期（中間期）決算概要
2. 2025年2月期 通期業績予想
3. 2025年2月期 中間配当 年間配当予想

補足資料：四半期別業績数値

## 2025年2月期 中間配当

### 【当社株主還元政策の基本的考え方】

- 当社は企業価値の向上により、株主価値を高めることを経営の重要課題と認識しております。業績を向上させ財務体質の強化を図ることで、安定的かつ持続可能な株主還元（配当・自己株式取得）をおこなうことを基本方針としています
- 配当については、DOE1.5%以上の水準を安定的に確保し、段階的に引き上げることを目指しております
- 一方、自己株式の取得については、資本効率向上などを目的として、経営環境、業績動向、並びにフリー・キャッシュ・フローや財務レバレッジの水準、将来の事業資金需要の見通しなどを総合的に考慮し、適切な時期に機動的に実施します



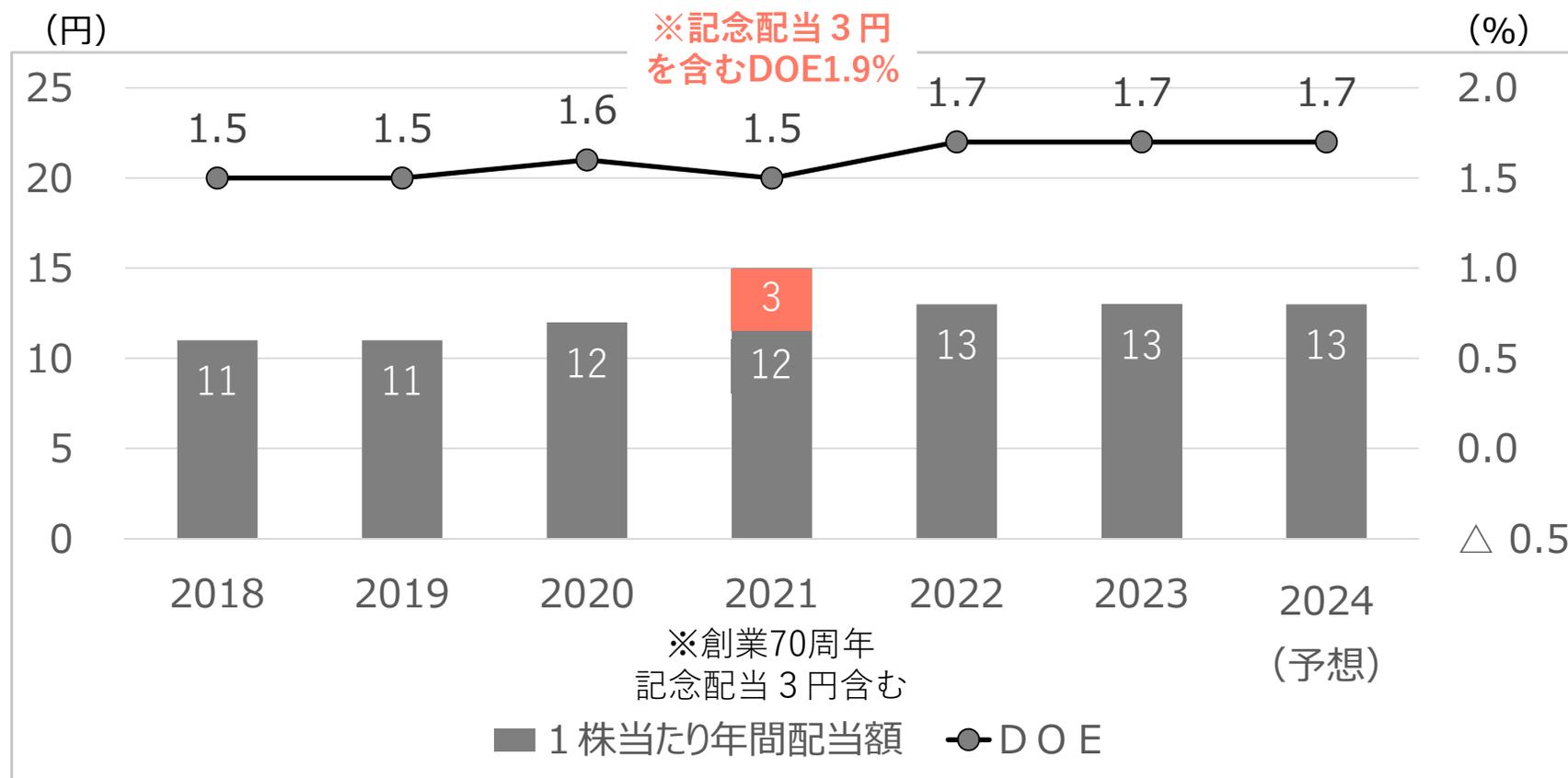
### 第63期（2024年3月1日～2025年2月28日） 中間配当

- |               |                                    |
|---------------|------------------------------------|
| 1. 中間配当金      | 当社普通株式 1 株当たり 3 円                  |
| 2. 支払総額       | 32,718,648円 （株式数10,906,216株 × 3 円） |
| 3. 配当の効力が生じる日 | 2024年11月12日                        |

## 1株当たり年間配当額、純資産配当率（DOE）

中間配当は当初予想どおり1株当たり3円を支給

年間配当は1株当たり13円（中間配当3円、期末配当10円） DOEは1.7%を予想



## 目次

---

1. 2025年2月期 第2四半期（中間期）決算概要
2. 2025年2月期 通期業績予想
3. 2025年2月期 中間配当 年間配当予想

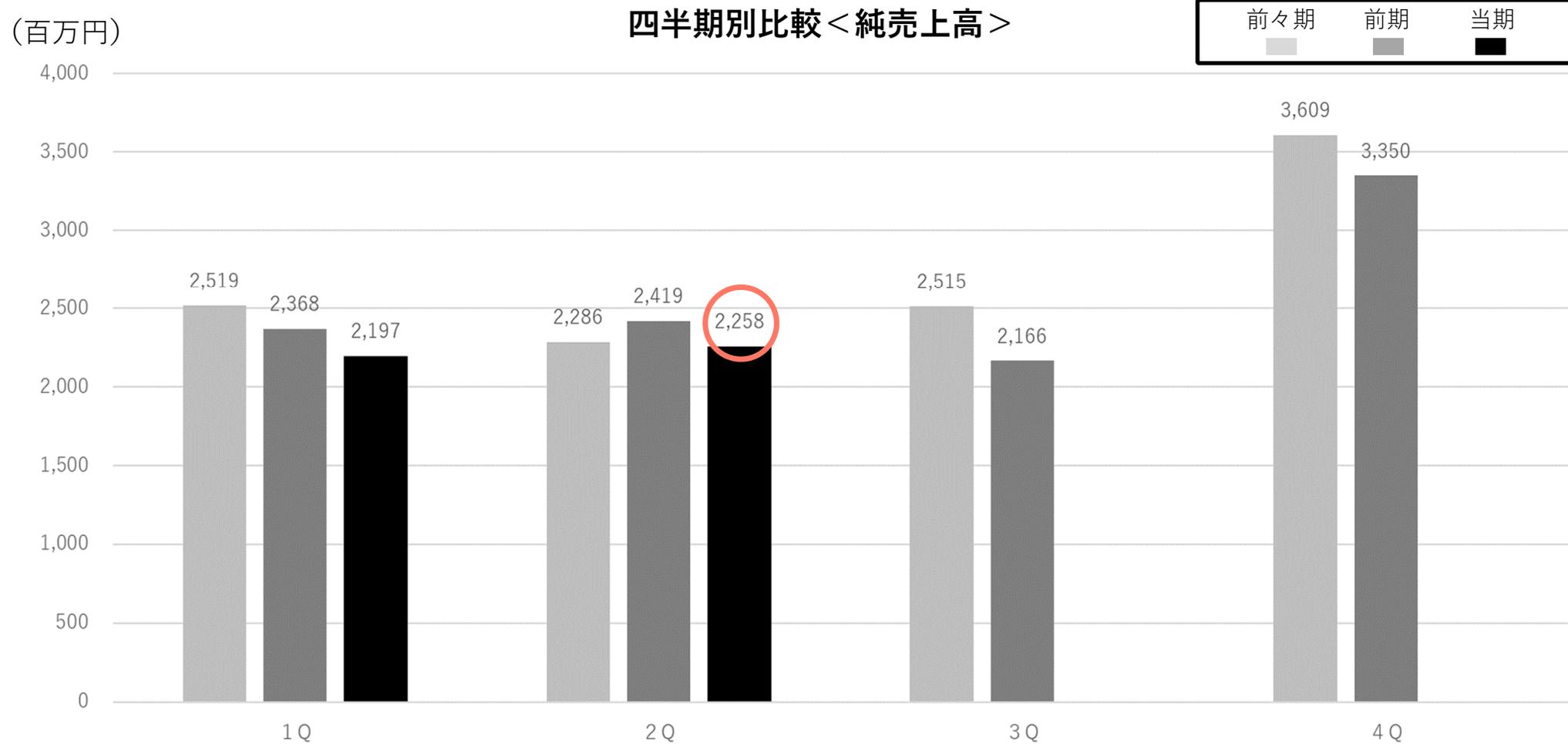
**補足資料：四半期別業績数値**

## 第2四半期（3ヶ月） 損益計算書

単位：百万円	2024年度	2023年度		
	中間 実績	中間 実績	前年同期比 差額	増減率
売上高	2,257	2,418	△161	-6.7%
売上総利益	574	724	△150	-20.8%
売上高比	25.4%	30.0%	-4.5pt	
販売費及び一般管理費	735	826	△91	-11.0%
売上高比	32.6%	34.2%	-1.6pt	
営業損失（△）	△160	△101	△59	-
売上高比	-7.1%	-4.2%	-	
経常損失（△）	△161	△80	△81	-
四半期純損失（△）	△104	△61	△42	-

# 四半期別業績数値 純売上高

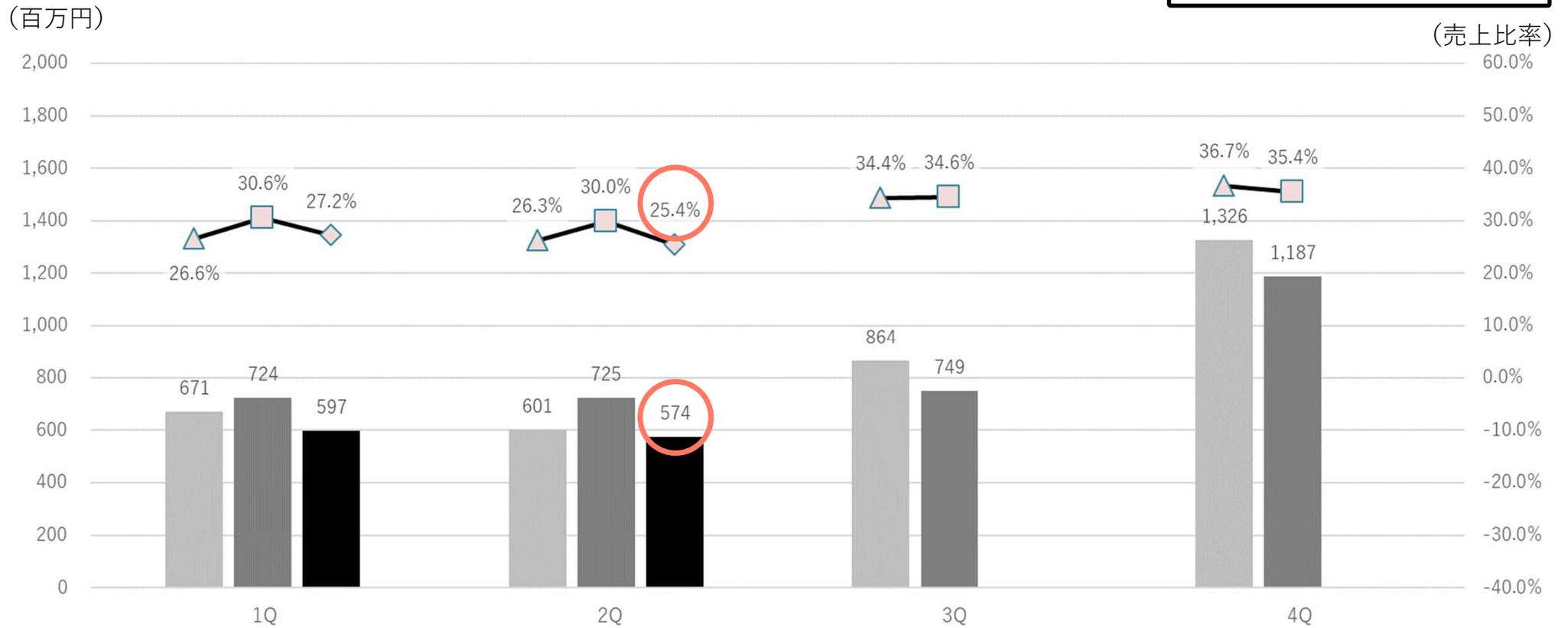
※前々期：連結 前期&当期：個別



# 四半期別業績数値 売上総利益

※前々期：連結 前期&当期：個別

## 四半期別比較<売上総利益>



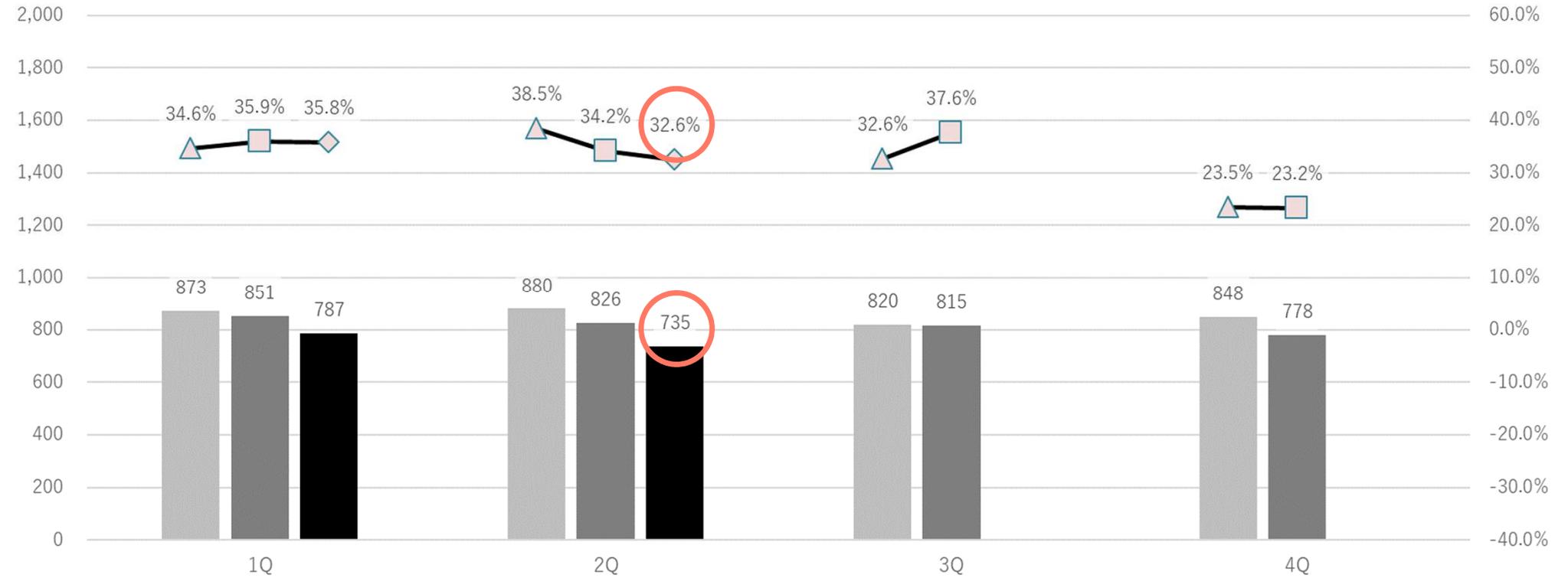
# 四半期別業績数値 販売費及び一般管理費

※前々期：連結 前期&当期：個別

## 四半期別比較<販売費及び一般管理費>



(百万円)



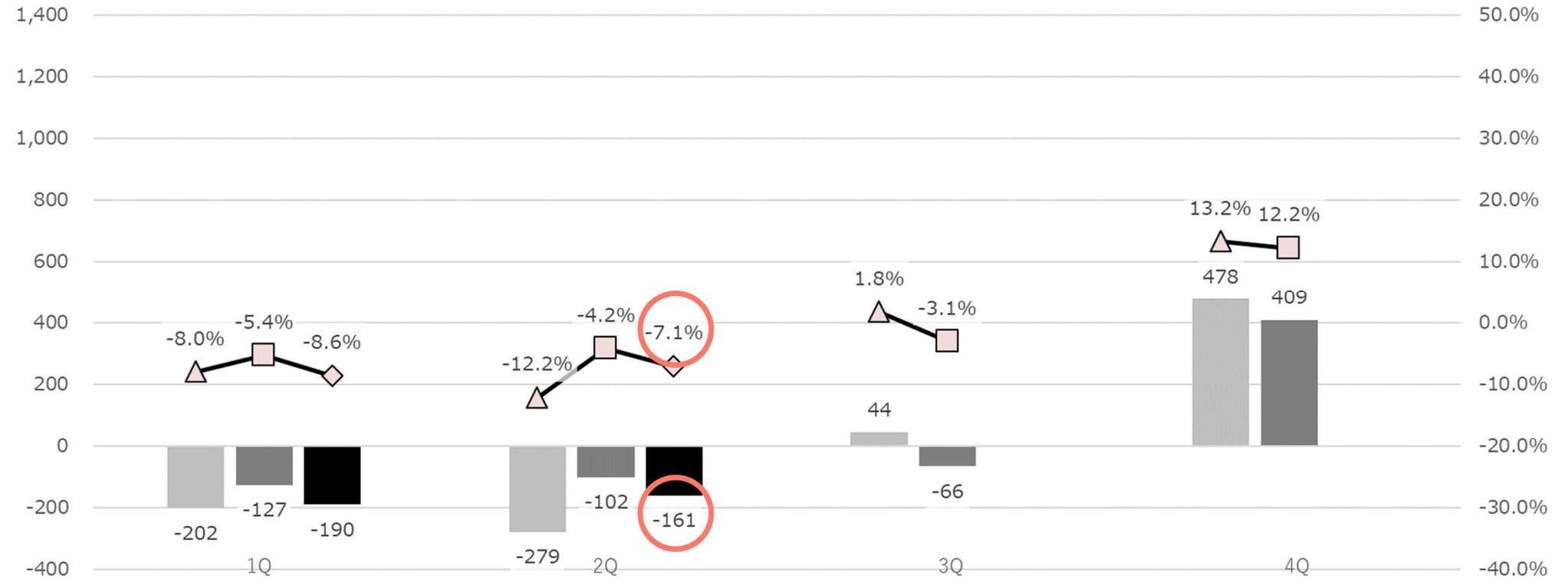
# 四半期別業績数値 営業利益

※前々期：連結 前期&当期：個別

## 四半期別比較<営業利益>



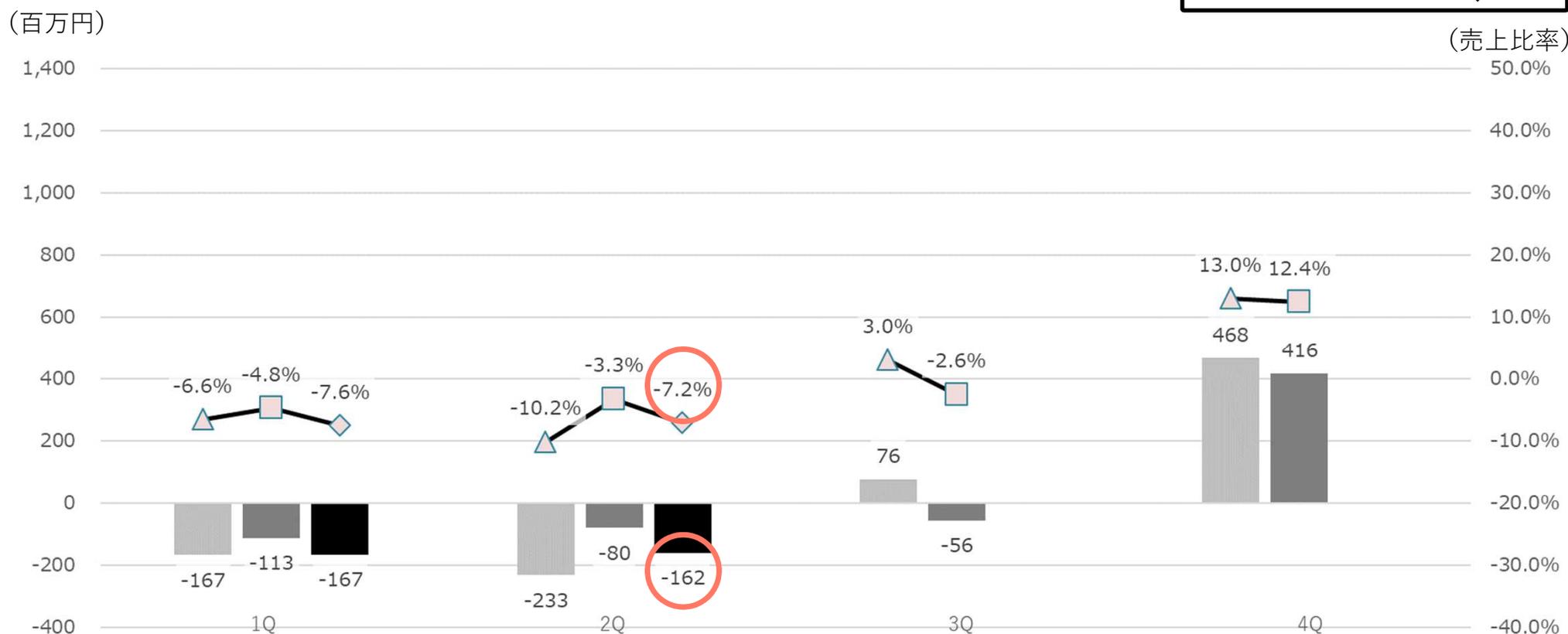
(百万円)



# 四半期別業績数値 経常利益

※前々期：連結 前期&当期：個別

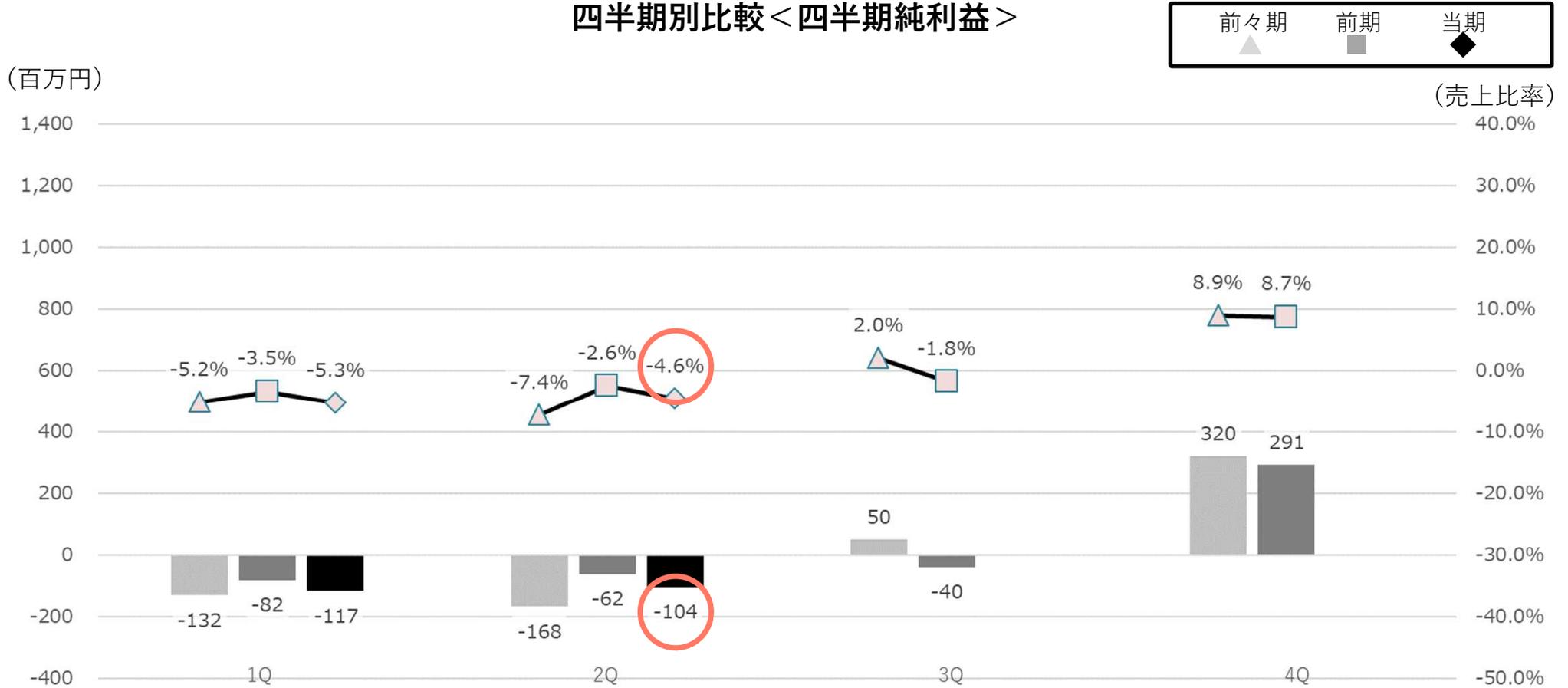
## 四半期別比較<経常利益>



# 四半期別業績数値 四半期純利益

※前々期：連結 前期&当期：個別

## 四半期別比較<四半期純利益>





# TWINBIRD

IR・決算に関するお問い合わせ先

株式会社ツインバード 取締役最高財務責任者 企画管理本部 本部長 渡邊 桂三 (TEL : 0256-92-6111)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する意見や予測等は、資料作成時点で一般に認識されている経済・社会等の情勢及び、当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更される可能性があります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。